

Jazz Saloon Cafe

BODY&SOULの外観。公園通りを代々木公園方面から、向かい側のビルの中に、盛り込まれた新しい設計になっており、Jazz Saloon Cafeの看板も公園通りから一歩で確認できる

BODY&SOUL

New “BODY&SOUL”

新たなジャズ・カルチャーを育む拠点の誕生

西原真志 ● 文

TEXT by MASASHI NISHIHARA

長年にわたり東京のジャズ文化、ライブ・シーンを牽引してきた名店中の名店“BODY&SOUL”が、南青山から若者文化の中心地、渋谷へ移転しリニューアル・オープンを果たした。広さはこれまでの約2倍、夜のライブ営業に加え、昼間のランチやカフェ・タイムも営業を開始するという。エンタメ/飲食業界において縮小傾向が続く中、敢えて規模を拡大、発展させる方向に舵を切った戦略とその目的とは。

1974年新宿にオープンした、ジャズ・クラブ“BODY&SOUL”。六本木、北青山、そして南青山と場所を変えながら、日本のジャズ・カルチャーを育ててきた。近年は南青山の名門ジャズ・スポットという印象が強いが、開店から半世紀を目前にして、オーナーの関京子氏は大きな決断を下した。

“渋谷の公園通りに移転する、それも、規模を大幅に拡大して新たな客層も開拓していく”

2021年10月10日、“BODY&SOUL”は渋谷の地で新しく生まれ変わった。エンタメ業界においても飲食業界においても社会的な縮小傾向が続く中、青山という大人の街から渋谷という若者を中心にトレンドをリードする街へと移ることについて、この移転をプロデュースしている有賀教氏はこのように話す。



「若い世代の多い渋谷において、また新たな地帯で“ライブ・ジャズ文化”の持続可能性を追求していきます。昼と夜の2つのスタイルでの営業となり、昼はジャズ・カフェ、夜はこれまでと同様のジャズ・クラブとして、幅広いお客様に楽しんでいただきたいと思います」

従来の青山ではどちらかというとエクスクルーシブなジャズ文化を育ててきたが、昼営業と夜営業という2つのスタイルを新たに展開することによって、さらに開放的かつ気軽にジャズを楽しむ門戸を開いた。

「昼のコンセプトは、これまでになかった“全く新たな観念のジャズ喫茶”。薄暗い紫煙の中で、黙々とLP盤を聴いた昭和のジャズ喫茶とは趣を異にし、スマホで、SNSで、会話が自由に飛び交う明るいWi-Fi空間にします。高音質で流れるジャズを聴きながら、そこに流れているLP盤の話題やジャズ談義がグループメディアで活発に展開されます。ジャジーで落ち着いた空間の中、最高品質の生豆から焙煎されたスペシャル・コーヒーを味わい、ジャズを聴きながら楽しいバーチャルな会話時間を過ごしていただく“ジャズ・サロン”です。ターゲットは、アフターコロナに社会を牽引し世の中の潮流となるであろう“Alone Together”(リアルな接触なく繋がる、孤独でも 誰の人も)な若者たち”。詳しく知らないけれど、ジャズって素敵な音楽だよね、という若者たちに、ライブ・ジャズとモダン・ジャズの奥深い世界への入口を提供します。もちろん若い若きも、男も女もカップルもファミリーも、ジャズ初心者もコアなジャズ好きも、昼夜の別なく豊かな人生の“サード・プレイス”としてご利用いただき

新しいBODY&SOULのステージは旧店舗を踏襲しているが面積は大幅に広がっており、大編成グループの演奏も可能になった。写真は12月8日作木良樹(b)トリオのステージ、ピアノはハクエイ・キム、ドラムスは村上寛



ます」

夜は従来と同様にジャズ・クラブだが、これまで以上の進化を果たした。

「南青山店のイメージを引き継ぎながらも、ほぼ倍の広さになりました。コンセプトは、ライブ・ジャズをコンサート会場でしか知らない平成育ちの若者世代に、真の“ライブ・ジャズ文化”を定着させること。演奏者と聴き手が身近に接し、あるいは飲み食いしながら感動を共有する。ライブ・ジャズ店にしかないライブ・ジャズの魅力、ロックにもポップスにもない、そんなライブ・ジャズならではの文化を継承発展させたいと思っています」

老舗のジャズ・クラブが、これまでのジャズ文化を継承しながらまた新しい発展を試みることは、ジャズ・ファンのみならず音楽界、さ

らには日本のカルチャー・シーンにおいても非常に貴重で重要なことといえる。この場で叶えられる老舗の伝統と若い感性の出会い、また新しいサウンドやムーブメントに驚くことだろう。

「今ジャズ・ファンは、ボーカル、インスト、特定の楽器や特定の演奏者ファン……とマニャックに細分化されて存在し、ライブ店もそれに適した出演スケジュールが生まれます。ジャズへの入口の関口は狭まるばかりです。New BODY&SOULが目指すのは、ここに来てトリオ演奏に色んな楽器が加わったり、コンゴにボーカルが入ったり、時にはタップダンスが入ったり……と毎夜ライブ・ジャズが多岐に、そしてジャジーに楽しめる店であり続けることです」

この関オーナーの言葉が印象深い。新たなジャズ・カルチャー育む拠点の誕生を心から喜びたい。

